

令和元年度 稲沢市地域自立支援協議会 第2回地域生活支援部会 議事要旨

[日 時] 令和元年8月1日(木) 午後2時～午後3時30分

[場 所] 稲沢市社会福祉会館 1階 集会室

[欠席者] なし

[議 事]

1 協議事項

(1) 医療的ケア児支援ネットワークについて

○6月10日の作業部会では、医療的ケア児のコーディネータ研修の報告等をした。関心のある方は誰でも参加できることとし、今回新たに4人の方が参加された。(訪問看護ステーション2人、保育、当時者の家族の方)。研修は本市から2人受講し、市町村別では相談支援専門員や保健師が多い。イメージとしては関係機関がバラバラに取り組んでいたことを繋げていく役割になっている。入院されている方は病院から保健センターに連絡が必ずあるが、後天性の方は連絡がないので、情報の把握をできる体制をつくれないう課題が挙げた。

その他、1月の講演会のアンケート結果の報告、医ケア児に対応できる訪問看護ステーション一覧も配布し、相談支援専門員の連絡会で作成したライフステージマップも紹介した。その他、県内市町村で学校に看護師が配置されているかどうかを調べていただくようにしていた。その後状況はどうか。

○次回報告したい。

○今後は気になる事例を持ち寄って新たな課題を見つけて行く。

○業務的にどこからというのは明確でないが、研修時は退院前から関わる事が望ましいと話があり、保健師に同行しての訪問や退院前の会議に参加して集約するのが良いのかなと思っている。進めるべきならやっていきたい。

○病院からすれば早ければ早い方が良いが、患者さんとの関係性もあると思う。

○病院の段階から関われば怪しまれないと思う。

○近隣病院の相談員さんに稲沢市のコーディネータについてお知らせし、退院時に連絡がくるようにしておく。退院前に話に入れる事を案内していくとスムーズ。

○簡単に案内しておいて、退院が見えてきたら具体的に了解を得て進めると良い。

○病院も広域で市内にはない。NICUのある病院のワーカーさんに声をかけて行くといい。保健センターに同行し回ることは業務的に難しく限界がある。

○セブンベルクリニックの先生にどのように声掛けをしていくのが良いのか。

○事業として市内の小児科医に知らせていくと言う事なら、先々は医師会へ話をした方が良い。その方法についても先生と相談して行けば良い。どういう風に広げていきたいかなど、足がかりとして先生にご相談しながら進めていくと良い。

○形をつくってから広げる方法もある。まず先生のお力をお借りしたい、これから広げて

いきたいということをして話して行けばよい。

- 直接先生に来ていただくのは難しいところはあるかもしれないのでこういう話が出たことを報告する形でのやり取りになるかもしれない。先生自体はスムーズに話ができる方で、相談すれば助言していただけるのではないかと思う。
- どこの病院に連絡すればよいかと言う情報は健康推進課から教えてもらえるか。
- 近隣になるが紹介できると思う。
- 保護者の方も参加していただいて、この会がなかったら知り得なかった方と話しが出来てよかった。和が広がるなら自分が関われるのはありがたい。もっと広がると良い。
- 当事者の方がまた参加されて話が聞けると良いかなと思う。

## (2) 地域生活支援拠点等の整備について

- 7月2日の作業部会では、緊急時の体験の機会や緊急時の受け入れについて相談した。想定すべきケースは現在相談員が関わっているケースで、体験の機会や緊急時にどうしていくか、イメージ図や事例も紹介した。1次的な事業所では本人の衣食住の確保をし、その後に2次的な事業所で、本人にあった支援ができる所を探していく。施設で泊まれる人なら良いが、家から出られない方などは、家に入るヘルパーさんも協力してもらわないと行けない。お子さんは学校にどうやって通学するか、通える体制がないという課題もあった。1次や2次の事業所として協力してもらおうところを探していく。定員が一杯で、定員超過で受けた場合の取扱いについて、緊急ショートに加算や、利用者に支障がなければ、居室以外の場所でも利用できる。緊急の判断については相談員が判断する時もあるので、基準は相談支援の連絡会で考えてはとの話が出た。  
ショートステイ事業所以外では、加算が取れない。こういうときは市の予算を使う話になる。事業所と契約していない方の体験はどうするか。緊急で受けた事例でも、日中通所事業所があり、昼間事業所から送迎に来てもらったので施設の負担が少なく助かった。日中活動の事業所にも声をかけ、事業所を集めて話をするようになっていく。
- 生活介護、日中一時、自立訓練、地域活動支援センターは9月5日の午後で会議の予定をしている。ヘルパー事業所も8月22日の午後で会議の案内をしている。全ての事業所に連絡会を作る予定となっている。
- 入所施設である2施設が欠席であったが、1次的な衣食住の確保は入所の2施設となる。ある程度生活が安定した方はグループホームへということで分けることで分かりやすくなる。
- 日中の事業所やヘルパー事業所とも連携出来るようにしていく。面的整備で全ての事業所が一丸となりオール稲沢で支える体制をつくりたい。アンケート調査から日中通所の施設でも普段の利用者なら夜間受け入れても良いと言う事業所も少ないがある。そういう所を増やしていくのは環境を変えないで良いので進めたい。

- まだまだ課題は多い感触。送迎や受け入れ先の少なさや、初めての方は施設側として慎重になる。緊急時に情報をきちんともらえるか、いろいろ不安要素はある。課題に残っていることは何か一度整理し、共通認識をして考えていく必要がある。拠点として協力できるところを一覧表で作成し、施設へ配布して緊急の時にどこに連絡すればよいのかなど、混乱しないようにできると良い。あとは事業所としてはこういった報酬がもらえるのかと言うことが大事なこと。
- 報酬については意見も出ていて市も考えるということだった。
- サービスの費用から出ないなら別の財布から出さないと、と言う話はした。
- 送迎の話も学校通学を支援することには現在利用できないのでどうするか。そのあたりが固まれば協力できるという事業所も出てくる。
- 地域の事業所間は顔が見える関係性はある、ある程度の枠組みはできたので、どの事業所ができるのか埋めて行けば良いと思う。まだ解決しない部分もあるし、市も予算の限りがあると思うが、地域の課題として必要なところは要望として挙げてほしい。
- 以前、今日連絡があり、今日からヘルパー支援してほしい事例があり対応した。1日3回訪問を明日から、と言うケースもあり、他の事業所と協力しないといけない方も出てくる。そういった対応がして行けると良い。

### (3) こども部会(仮)設置について

- 7月22日の作業部会では、新たに部会を設置するために核になる方を集めていく必要があるので、まず部会長と部会の担当者、事務局で検討した。
- 今、保育園や小学校、中学校、高校へのつなぎ目の連携の問題があり、西町や、児童センター、学校、檜の木のチャイブの方にも参加してもらいたい話になった。
- 中央子育てセンターや学校、特別支援学校、子育て支援課も声があがった。
- 障害児福祉について詳しくないので、保育や幼稚園と福祉サービスとの関わりが難しいが、保育課も是非協力していきたい。
- 子ども部会の中身は本来すごく濃いものだと思う。医療的ケア児もそうだが、これからどう進めていくのかと思っている。
- 2年後に協議会に子ども部会を置くことで進んでいる。こども全体の話は協議するので色々な課の事を共有しないといけない。協議会も現在3部会30人構成だがどうするか課題。医ケア児は子ども部会で担当し、拠点は整備後もモニタリングのために引き続き地域生活支援部会で担当する予定。
- 子どもに関しては児童発達センターや未歩行児の入園、中高の連携、児童に詳しい相談の育成などが現在課題として挙がっている。作業部会メンバーとして意見が出た、西町のセンター、学校教育、特別支援学校、かしのき福祉会の療育サポートプラザチャイブの方へは、良ければ次回案内していく。部会設置後は児童相談センターや中央子育てセンター、健康推進課の方にもお願いしていく。部会設置後の作業部会には、

高校や私立保育園のネットワークも必要ではないかと意見があった。

- 特別支援教育コーディネータの会というものはあるか。
- 今年度から校務主任が特別支援教育コーディネータを兼ねている。全員が兼ねている。  
2人配置されている所もあるが、校務主任は必ずコーディネータとなっている。
- まとめ役の方はいるか、それは学校教育課になるか。
- 学校教育課が中心に話をしている。
- 会議への参加についてどうかと思っていて、代表となる方があれば聞きたかった。
- 特別支援教育推進委員会があり、会長や庶務の先生はいる。推進委員会では研修や手続きなど実務について情報発信する。コーディネータは校務主任会議を兼ねて行っている。働き方改革でコーディネータだけを集めることが難しく校務主任と兼務にした。
- 親の立場からするとコーディネータの先生には担任との間に立ち両方の意見を調整してもらいたいと思っている。そうならば特別支援の担任の先生で積極的な先生の方が良いと言う気持ちはある。私の時代はあまりコーディネータの先生には理解してもらえなかった。公務の先生だと積極的な人ばかりではないと思うのでどうか思う。
- 11月に就学にむけて判定会議があるが、その委員会の代表の先生が通級の指導教室を担当していて色々な話が集まってくる。特別支援教育の関係から誰かということならその方が一番適切ではないか。
- 一番当初に特別支援教育に熱心に取り組まれた方だと思うので、適切だと思う。業務が忙しいが、日程が合えば出て頂けると思う。一度声をかけておきたい。

#### (4) その他

- 医療的ケア児のコーディネータ養成研修について、日程が決定した。10月と11月で計4日間。内容は昨年度と同で、受講者は市から推薦する。これから案内をしていく。健康推進課には福祉課から送付済。あとは基幹センターから相談支援事業所と医療的ケア児支援ネットワーク関係者へ案内をしていく。